

授業改善プラン 3年

	児童の実態と課題	取り組みの重点	授業改善の成果と課題
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えはもっているのに、そのことを全体に発表できない児童がいる。友達と同じ意見や似ている意見だと発表しない傾向がある。 ・ 登場人物の気持ちを自分の言葉にして表現したり、場面の移り変わりを読み取ったりすることが苦手な児童がいる。 ・ 作文を書く時の決まりや段落分けを理解できていない児童がいる。 ・ 国語辞典を使用する技能に差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達と同じ意見でも自分の言葉で伝えるよう日頃から声を掛ける。また、話型を示し、付け足しや似ている意見を伝えやすくする。 ・ ワークシートを活用し、登場人物の気持ちや場面の様子を段落ごとに整理しやすくする。 ・ 作文の書き方の手本を示し、作文を書く時のルールを意識して書かせる。また、手紙やはがきの書き方においては、外部機関のワークシートを活用する。 ・ 単元ごとに意味調べの時間を設け、国語辞典の調べ方を定着できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話型を提示することにより、意見が言いやすくなった。「〇〇さんと同じで」「似ていて」などの言葉を使って発言をする児童が増えた。 ・ 主に物語文でワークシートを活用した。場面ごと、段落ごとに話を整理しやすくなる一方で、段落同士のつながりを意識して物語を読み込ませることが必要である。 ・ 作文を書く時、手本を見ながら書くように声を掛けたが、段落分けや「」を用いる時のルールはもう少しである。 ・ 今後も国語辞典を使う時間を確保する。

社会	<ul style="list-style-type: none"> ・「まちたんけん」は、興味をもって取り組むことができた。登下校で利用している児童が多い場所も、改めてたんけんすることで、新たな発見をしていた。気付いたことを方位毎に比較しワークシートにまとめることができない児童もいた。 ・資料の読み取りが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の授業から「振り返り」をさせ、わかったこと、気付いたことを整理させていく。 ・授業で資料（地図、グラフ等）を活用し、気付いたことや考えたことなどを書かせる取組をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のめあて→予想→調べる取組→結果の確認という流れを意識し、どのような考えがあるのかを明確にすることで、振り返りを書けるようになってきた。 ・3年生段階では、グラフ資料が教科書にあまり出てこない。写真資料を多く取り上げることで、写真からわかること、考えを書かせた。大部分の児童は自分の意見を書けるようになった。なかなか考えが見つからない児童に対しては、ヒントを与えるような手だてを取った。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・問題場面が理解できない児童が多い。すべての基本となる考え方の定着が必要である。 ・処理のミスをする児童が多い。丁寧な処理と作図の正確さが求められる。 ・低学年の演算に不安のある児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペア学習で立式の根拠を説明させることを繰り返す。 ・キーワードやキーセンテンスに着目させ、考えさせる。 ・作業手順をICT機器などを活用してわかりやすく伝える。また、個別指導の時間をとり、個別にチェックする。 ・授業中や全校算数、宿題で東京ベーシックドリル等復習問題に取り組ませ、既習事項を思い出させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・立式の根拠を言葉で説明させることにより、意味を理解できるようになってきた。 ・実物投影機の使用により、教材の提示が分かりやすくなり、ノート指導にも効果的であった。 ・全校算数、家庭学習を通じて、個に応じた指導ができ、基本的な計算力を身に付けることができた。

理科	<ul style="list-style-type: none"> ・観察の視点をきちんともつことや、観察するための技術をきちんと身に付けさせる必要がある。 ・実験には積極的に取り組んだ。しかし、何のための実験なのかという意識が薄い児童もいる。 ・理科的視点から、長期的な予想や観察の継続ができるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察の視点を示す。虫眼鏡の使い方や、観察カードへの記入の仕方を指導する。 ・何を知るための実験なのかを毎回明確にする。予想、実験、考察の理科的な学習の流れを理解させ、実験や観察の学習での思考を充実させる。 ・実験や観察の基礎的スキルを身に付けられる学習を繰り返す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察の視点を示すことで、大きさや長さ色などを比べながら、記録を取る児童が増えた。 ・何を知るための実験なのかを明確して取り組んだことにより、予想から考察まで一貫してその事象について考える姿勢が育ってきた。 ・実験や観察を繰り返すことにより、少しずつスキルが身に付いてきている。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱は楽しみながら歌うことができているが、声を合わせて歌うことに課題がある。 ・器楽はリコーダーの学習を中心に、基礎的な力が身に付きつつあるが、他の楽器の経験も必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の声を聴きながら歌ったり、友達と聴き合ったりしながら、いろいろな種類の音楽に触れ、曲想に合った歌い方ができるようになる。頭声的発声も取り入れ、スキルも習得させていく。 ・リコーダーの基本的な奏法や運指の定着を図る。 ・リズム唱や階名唱をして、音楽の基礎的知識を定着させ、器楽の学習につなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想に合った歌い方は、発問や声掛けで意識できる児童が増えた。常に曲想を感じ取り、それに合った歌い方を考える習慣をつけていく。 ・運指は多くの児童で定着してきている。フレーズと息継ぎの関連をさらに指導していく。 ・器楽の学習は、階名の意識はあるが、リズム理解に少し課題がある。リズム唱を継続し、力を付けていく。

<p>図工</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・絵を描いたり、立体を作ったりすることが大好きで興味をもってよく集中して作品に取り組むことができる。 ・鑑賞では、さまざまな作品に興味をもって楽しく観ることができ、友達の話も友達の話も聞き、楽しく作品を観ることが出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな材料をもとにして造形活動に興味をもって工夫して取り組む事ができるようにする。 ・鑑賞活動では、作品をしっかり見つめ、鑑賞カードに自分が気付いたこと、思ったことを書くことができるようにする。自分の感想などを発表しあい、その過程で、作品の見方が変わり、友達のよいところを認め合うことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いにあった表現方法を選んだり、発想を広げたりする手掛かりにするため、さまざまな材料を使って、表現法を紹介する事で、造形活動への興味をもたせることができ、意欲的な取組をする事が出来た。 ・名画や展覧会での友達の作品を鑑賞して、自分が気付いたこと、思ったことを鑑賞カードを使って作品をしっかり見つめる事ができた。また、展覧会では、友達のよいところを認め合う事ができた。
<p>体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動が好きな児童が多く、意欲的に運動に取り組む姿が見られる。 ・運動の内容によって個人差が見られる。 ・ゲームの中で、自分の動きを考えたり、作戦を立てたりする経験がまだ不足している。また、勝敗にこだわりすぎる児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な運動を積極的に取り入れ、技能を身に付けさせる。 ・学習カードを用い、個人のみめあてを立て、それを達成できるようにする。 ・ゲームを工夫して楽しさを感じさせ、協力することの大切さを指導する。 ・作戦カードやホワイトボードなどを活用しながら、チームで話し合う経験を積ませる。 ・ミスをした相手も責めず、励ます声掛けをするように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マット運動、跳び箱運動、ボール運動、走る運動など、全体的に意欲的に取り組む事ができた。 ・どの児童も達成感を味わえるように、スモールステップが踏めるような学習カードを活用した。意欲的に取り組む事ができた。 ・プレルボールやゴールシュートゲーム、ラインサッカーなどでゲームを楽しむ事ができた。 ・作戦だけでなく、準備や片付け、めあて決めもチームで取り組むような活動を設定した。励ましの声や前向きな話し合いができてきた。